

2020年度業務実績報告書

参考資料

2021年6月

愛知県公立大学法人

	ページ	関連項目番号
【県立大学】		
1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」	・ ・ ・ P 1	1,2,3,8
2 地域共生プロジェクト	・ ・ ・ P 4	4
3 情報科学部新コース制	・ ・ ・ P 5	4,8
4 公衆衛生看護高度実践コース	・ ・ ・ P 6	5,
5 教育研究組織の見直し	・ ・ ・ P 8	8,19,21
6 学長特別教員研究費	・ ・ ・ P 10	18,21
7 愛知県との連携に関する取組	・ ・ ・ P 11	20,26
8 「認知症に理解の深いまちづくり」事業に関連した取組	・ ・ ・ P 12	22
9 グローバル人材育成事業	・ ・ ・ P 13	22
10 災害弱者対策・支援プロジェクト	・ ・ ・ P 14	24
11 国際戦略方針に基づくアクションプラン	・ ・ ・ P 15	26
【芸術大学】		
12 アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業	・ ・ ・ P 16	30
13 アウトリーチプロジェクト	・ ・ ・ P 17	32,42
14 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻	・ ・ ・ P 18	33
15 芸術大学におけるキャリア支援	・ ・ ・ P 19	36
16 新サテライトギャラリー SA・KURA	・ ・ ・ P 20	43
17 教員による芸術活動の主な実績	・ ・ ・ P 21	39
18 美術学部教員展のVR開催	・ ・ ・ P 23	39,42
19 収蔵品展	・ ・ ・ P 24	42
20 あいちトリエンナーレ芸術大学連携プロジェクト	・ ・ ・ P 25	41
21 あいちアール・ブリュット障害者アーツ展	・ ・ ・ P 26	41
22 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組	・ ・ ・ P 27	45
【法人運営】		
23 トップマネジメントによる予算配分	・ ・ ・ P 29	46
24 2大学による連携事業	・ ・ ・ P 30	48
25 事務職員の育成(海外・他機関派遣研修)	・ ・ ・ P 31	52
26 学生緊急支援基金	・ ・ ・ P 33	55

1. 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」

【県立大学】

(概 要)

教養教育を学ぶうることこそ大学の特徴であるという考えを基礎に、「県大世界あいち学」という愛称のもとに、2021年度から実施する新カリキュラムを構築しました。その際、愛知に根ざしたグローバルな視野での学び、専門教育と表裏の関係での複眼的、領域横断的な知的基盤の獲得、予測困難な新時代を生き抜く人間力の涵養、といった考えのもとに学部間連携を主軸に自治体・産業界等との連携を組み込んだ科目編成と教授体制を作りました。特に世界の最新情勢と愛知県の独自傾向を踏まえ、多文化・多言語への理解を通じた協働能力を涵養することとし、身近に必要性が認識されるポルトガル語教育に力点の一つを置きました。また、IT・AIなど技術革新の動向を踏まえてデータサイエンスなどの情報科学分野を重視しました。

特に、その中核をなす学部間連携科目8科目（APU 教養コア科目2科目、APU 教養連携科目4科目、APU 教養特別科目3科目のうち2科目）を以下の理念の中心と位置づけ、科目全体をこれに関連づけることで、教養教育の個性を生み出しました。第三期中期目標・計画の最終年度2024年度が新カリキュラムの完成年度となります。

(理 念)

人をつなぎ世界を結ぶ、愛知に根ざしたグローバルな視野をもって、次のような活動ができる素養を育む。

- ・人間性と文化について科学的な思考によって価値の相対化ができる
- ・予測困難な事態にも対応しつつ主体的に社会性をもって行動できる
- ・人権尊重や国際平和の普遍的価値に照らし、学びの英知を地域社会へ還元できる

(目 標)

教養教育の理念を達成するため、以下のような人間力の育成を目標とする。

- A) 基本的人権と国際平和の重要性を認識し、倫理観や正義感をもって行動できる。
- B) 国際社会とその多文化の諸価値を理解・尊重できる。
- C) 文化の違いを超えた相互理解のためのコミュニケーション能力と情報発信力をもつ。
- D) 課題解決のための合理的・論理的かつ批判的・創造的な思考力を有する。
- E) 事実を客観的に分析・理解し、数理的・客観的なデータ分析ができる。
- F) 専門分野を超えた総合的な視点と考えを深めることができる。
- G) ジェンダーやセクシュアリティ、また弱者やマイノリティーに適正な理解ができる。
- H) 生きる意味を自覚し、健康的な生活を探究しつつ将来を見据えることができる。
- I) 科学技術の発展と自然界の現状を理解することができる。
- J) 災害発生等の不測の事態に対処し、主体的に行動できる。

(科目構成の構造と概要)

○ **APU 教養教コア科目** (2科目)として、「多文化社会への招待」※「データサイエンスへの招待」※を1年次必修とし、本学での学びの全容を理解しつつ主体的に選択できるように促し、情報科学による裏づけをも得られるようにした。5学部教員が連携し、5学部学生が領域を超えて学び合う。

○ **4科目群**に編成し、それぞれの中心に**APU 教養連携科目** (4科目)として「グローバル社会の諸問題」※「エリアスタディーズ総論」※「ものづくりの現状と課題」※「いのちと防災の科学」※を置いた。【下記表】

○ **APU 教養特別科目** (3科目)として、「教養留学修得科目」「県大エッセンシャル」※「県大教育ゼミナール」※(選択科目)を、フレキシブルかつ積上げ式科目として置いた。

○ 外国語・キャリア教育・スポーツ実践の諸科目も、教養教育全体に含み込み、教養教育の理念のもとにあることを明確にした。

※ 学部間連携科目 8科目

○ **4科目群の構成**

(1) 世界を理解する： 多文化・多言語の実際を学び社会での協働に役立てる科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「グローバル社会の諸問題」として、外国語学部教員を中心に、年度ごとに設定するテーマに関係深い他学部教員が連携担当する。
多文化理解	触れたことのない文化や言語に接して自国の文化や言語を見つめ直し、グローバルな場面への備えを探る。「Global Vision Talks」「Japan's Interactions with Other Cultures」「Japan Seen from Outside」といった外国語授業を主とする。
外国語科目	英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、日本語の各ⅠⅡと、「教養外国語ショートプログラム」を置く。
外国語セミナー	上級履修科目として英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の各セミナーを置く。

(2) 地域を掘り下げる： 愛知・日本・世界の諸地域を身近な生活に即して理解する科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「エリアスタディーズ総論」として、外国語学部と日本文化学部の教員が連携して、特定地域の歴史、社会、文学、文化など多角的に探る。
愛知・日本	愛知、東海地方、日本それぞれの文学、歴史、ことば、生活を地域に根ざした文化という観点から学ぶ。
諸地域研究	現代社会について注視しつつ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカといった世界の歴史・文化を学ぶ。

(3) 社会に生きる： 現代社会の実相を学術的に探究しつつ身近な課題を見つめ直す科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「ものづくりの現状と課題」として、日本文化学部と情報科学部の教員が連携担当し、愛知のものづくり企業の協力のもと、チームでプロジェクトのテーマを設定しつつ、課題解決に取り組むプロジェクト型実践教育。
現代社会	私たちを取り巻く現代社会の仕組みや文化について、主に社会科学の手法を通して理解し、現実社会の課題を見つめつつその解決策を構想し、将来を展望して生き抜く力の基礎を培う。
キャリア・プランニング	1年次から4年次までの各段階に即して、本学で学ぶ意義を卒業後の人生行路との関係で構想する、積上げ式のキャリア教育科目群。愛知地域の産業動向や、卒業生の活躍現場などを参照する。

(4) 科学と人間を深める： 人間知の科学的探究力と心身豊かな人間性を涵養する科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「いのちと防災の科学」として、教育福祉学部と看護学部の教員が連携担当し、防災・減災のための知識やスキルを学ぶと同時に、医療・教育、福祉、心理の観点からさまざまな立場の人のいのちを守ることにについて思考を深める。
自然科学	自然現象と人類科学から見出される普遍的な法則性探究の歴史を背景に、私たちを取り巻く現在と今後の課題解決について考える。
人文科学	哲学、心理学、文学、芸術鑑賞・表現に関わる人間諸活動の叡智に触れ、人類の文化や歴史の本質と価値を探りつつ自らを省察する。
情報科学	IT・AIなどの技術革新の動向を見きわめ、情報科学の技術と倫理を身につけ、次世代を展望しつつ主体的に生きる方法を身につける。
スポーツ・健康科学	生き方と心身との関係、健康づくりの科学的方法、などを学術的・実践的に学び、主体的な生涯スポーツ実践たることを目指す。

2. 地域共生プロジェクト

【県立大学】

(概要)

教育福祉学部・人間発達学研究科が、地域の教育・福祉分野における共生に関する教育と共同研究（多文化・発達障がい・貧困・虐待・ジェンダー等に関する多様性の受容・理解と支援）を国際的視野をもって、他学部・他機関と連携しながら推進する活動です。学部として、瀬戸市から委託された学習支援活動、多文化共生・多職種連携に関するシンポジウム等を実施しています。教育福祉学部では、このプロジェクトとリンクさせて、とくに「多文化共生」、「貧困問題等」「地域の多様な人材の教育への登用やアクティブラーニング」の観点から教育内容を充実させるためのプログラムを構築していく方針を決定し、検討しながら一部実施しています。

この取り組みを、貧困・ひとり親・異文化等の多様な背景に基づく生きづらさを抱えた人々を総合的視野を持って支援できる、教育と福祉の専門職養成に向けた新たな教育プログラム（仮称：「あいち特別ニーズ支援プログラム」）の構築につなげる予定です。

(主な取組)

○多文化共生

- ・受入留学生との交流会の開催
- ・ソウル基督大学との協定に基づいたオンライン上での交流の準備、及び受け入れ・派遣ショートプログラムの再構成の検討
- ・愛知県多文化共生推進室等との連携（セミナーの講師依頼・協力、審議委員等）
- ・瀬戸市教育委員会と共催の「継承スペイン語教室」の実施と学習プログラム開発

○貧困問題等

- ・瀬戸市における中学生の学習・生活支援活動や保育園等における発達・子育て支援活動の単位化
- ・認知症カフェの企画・運営、虐待防止オレンジリボン運動への学生の参加促進
- ・愛知県や県内自治体等の審議会委員活動による地域貢献と学生の教育への反映（愛知県社会福祉審議会委員、子ども・子育て会議委員、愛知県福祉人材センター運営委員会委員、日進市社会福祉協議会 こども食堂・学習支援の啓発促進等に関する検討会委員等 多数）
- ・独立行政法人教職員支援機構から受託した「令和2年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」の一環としての、「虐待防止・対応セミナー」の開催 等

○地域の多様な人材の教育への登用やアクティブラーニング

- ・愛知県福祉局子育て支援課等による放課後児童クラブに関する説明会の学内での実施
- ・地域の施設・団体等で活動している専門家をゲストスピーカーとして授業に招聘
- ・地域での共同研究や調査への学生・院生の参加促進
- ・教育と福祉の連携に関する公開講座・研修への学生・院生の参加促進

3. 情報科学部新コース制

【県立大学】

(概要)

情報科学部では、情報科学と技術に関する基礎知識を身につけ、激しく変化する技術情報に対応できる能力を有し、高度情報社会を支えて社会で活躍できるIT人材を養成し、地域に送り出していくことが重要と考えています。

昨今は第4次産業革命(Society 5.0)を支えるIoT(モノのインターネット)、人工知能(AI)、ロボット技術、ビッグデータ、データサイエンスなどの新しい技術をリードする人材の育成が急務とされていることを受け、2021年度、IT技術の各領域の専門性を一層強化するために現行の1学科3コース制を1学科4コース制に再編します。

コース	概要
情報システムコース	ネットワーク、セキュリティ、並列分散処理、センサー等に関する知識を修得し、ICTとその活用に係わる諸問題を解決するのに必要な能力を身につけるコース
シミュレーション科学コース	システム同定、数理モデル化、ビッグデータ処理、センシング等に関する知識を修得し、大規模かつ複雑なシステムに係わる諸問題を解決するのに必要な能力を身につけるコース
知能メディアコース	情報コンテンツ、視聴覚情報処理、知識情報処理、言語情報処理等に関する知識を修得し、学習や推論などの高度で知的な判断を要する情報処理システムに係わる諸問題を解決するのに必要な能力を身につけるコース
ロボティクスコース	ロボット運動制御、システム統合技術、自律システム、知的情報処理等に関する知識を修得し、多種多様な実環境で活躍するロボットや知能システムに係わる諸問題を解決するのに必要な能力を身につけるコース

4. 公衆衛生看護高度実践コース

【県立大学】

(概要)

社会的ニーズや保健師活動の拡大化・専門化に対応できる能力をもつ保健師の育成を目的とし、将来的には統括保健師をはじめとする保健師職のリーダーとして地域の保健行政を牽引していくことができる保健師の育成を目指して、2021年度より、大学院看護学研究科に「公衆衛生看護高度実践コース」を新設します。

(育成したい学生像)

公衆衛生看護高度実践コース内のディプロマポリシー(学位授与方針)として、以下の6点を設定しました。

- ① 地域に暮らす個人・家族の健康課題を適切にアセスメントし、セルフケア能力向上や行動変容を促しながら、問題解決につなげることのできる高度な実践能力を有する。

—個人・家族に対するケア能力

- ② データや科学的知見に基づき、コミュニティ(集団・地域)における健康課題を分析し、問題解決のための対策を提案し、組織としての力量形成を支援できる能力を有する。

—コミュニティに対するケア能力

- ③ 個人や地域の多様性および社会の変化に対応する幅広い知識と柔軟な考え方を有し、新たな課題や簡単に答えがみつからない課題に対しても、創造的・革新的な視点で健康政策を提案できる能力を有する。

—創造的リーダーシップ・政策提言力

- ④ 公共保健政策に関する基本的な理念・考え方を理解し、公平性と公共性を基盤とした高い倫理観・態度を有する。

—公平性・公共性を基盤とする倫理観

- ⑤ 住民と協働し、地域の様々な職種と連携し、健康課題解決のためのネットワークやシステムを構築することのできる能力を有する。

—人間関係力・システム構築能力

- ⑥ 公衆衛生の世界的動向やグローバルな課題との関連の中で国内および地域の保健課題を捉え、個人や集団の多様な価値観と文化を理解し、在留外国人や固有の文化を有する集団のニーズに対応する能力と態度を有する。

—多文化理解・国際的視点

(コースの特徴)

上記ディプロマポリシーに示した高度実践人材を育成するために、修了要件として共通科目12単位、専門科目20単位、高度実践コース科目30単位、計62単位のカリキュラムを設定しました。

カリキュラムは看護学研究科の共通科目、専門科目を活用することに加え、保健師学校の指定規則に定められた単位に上乗せする形で応用疫学、公共保健政策論、4科目の実習等を配置し、学部教育では実現が難しかったより高度な看護実践能力が身に付けられるよう構成しています。さらに公衆衛生看護学総合研究では、公衆衛生分野の最新の知見を探索し、批判的に吟味しながら、現場のニーズに根差した質の高い保健師活動の実践に貢献する研究ができる能力の育成を目指しています。具体的なカリキュラム内容は次のとおりです。

教育課程と指定規則との対比表

(保健師学校) (愛知県立大学大学院) (看護学研究科)

指定規則の教育内容						別表1 (保健師課程)																			
						教育課程					公衆衛生看護学					保健医療福祉行政論					公衆衛生看護学実習				
						区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習					計	
必修	選択	1単位当たりの時間数	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				疫学	保健統計学									保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習		
						2		16		2	2	4				5	31								
共通科目	看護理論	1・2		2	15																				
	看護倫理	1・2		2	15																				
	看護管理論	1・2		2	15																				
	コンサルテーション論	1・2		2	15																				
	医療ポルトガル語	1・2		2	15																				
	看護学研究方法概論	1・2	2		15				②																
	看護学質的研究法	1・2	2		15				②																
	多変量解析論	1・2	2		15						②														
	調査研究法	1・2	2		15						②														
	臨床薬理学	1・2	2	2	15						②														
フィジカル・アセスメント	1・2	2		15					②																
病態生理学	1・2	2		15					②																
	小計				12												12								
専門科目	看護基礎科学	感染看護論	1・2	2	15		②																		
		家族社会学	1・2	2	15		②																		
		疫学	1・2	2	15					②															
		ヘルスプロモーション論	1・2	2	15		②																		
	臨床看護学	家族看護学特論	1・2	2	15		②																		
		家族と健康	1・2	2	15		②																		
	広域看護学	カウンセリング論	1・2	2	15		②																		
		国際看護学特論	1・2	2	15		②																		
		在宅ケア論	1・2	2	15		②																		
		老年保健福祉政策論	1・2	2	15								②												
		公衆衛生看護学特論	1	2	15		②																		
		対象別保健指導論	1	2	15		②																		
		特定集団支援論	1	2	15		②																		
		保健指導技術演習	1	2	15		②																		
		コミュニティー・アセスメント演習	1	2	15				②																
		公衆衛生看護管理論	2	2	15					②															
保健医療福祉行政論	1	2	15							②															
公共保健政策論	1・2	2	15							②															
応用疫学	1・2	2	15						②																
公衆衛生看護学実習	1	3	45									②	①												
継続事例支援実習	1	1	45										①												
特定集団支援実習	1	1	45										①												
公衆衛生看護管理実習	2	3	45											①	②										
公衆衛生看護学総合研究	1~2	4	30																						
	小計				50												46								
卒業要件単位数(最低単位数)						62		36	4	4	6				8	58									

5. 教育研究組織の見直し

【県立大学】

(概要)

多様化・高度化する社会の要請に応えるため、以下の通り、組織・体制等の見直しを図りました。

(1) 研究所新体制の構築

大学の研究力の結集と研究成果の一元的発信を図るため、これまでの学部・研究科を基礎とした研究所を廃止し、学部間連携を必須要件とした新研究所・研究プロジェクトチームを発足することを決定。規程整備等を進め、2020年8月に全学説明会、8～9月に設置申請受付、11～12月に審査を行い、6研究所1研究プロジェクトチームの設置を承認した。また、新研究所・研究プロジェクトチームを統括するとともに、研究に関する事項（教員に対する研究支援などを含む）を一元的に管理する「研究推進局」を、全学組織である学術研究情報センターのもとに新設することを決定し、2021年4月からの研究所新体制を構築した。

※別紙「2021年4月1日からの新研究所体制」も参照。

(2) 国際戦略室の新設

大学としての国際交流の統括を行う「国際戦略室」を2020年4月に新設。これに伴い、入試・学生支援センターに設置していた「国際交流室」を「留学支援室」（留学生の受入・派遣、福利厚生等の留学支援に特化した組織）に改称した。

(3) ポルトガル語ネイティブ教員の採用

複数言語体制の構築に向け、ポルトガル語や関連文化、地域のグローバル化等に関する全学的な教育研究を充実させるため、教養教育センター付教員としてポルトガル語ネイティブ教員1名を採用した。

(4) 受入留学生のための学内組織連携強化

受入留学生のための体系的な教育プログラム等を策定・実施するため、「学術交流協定大学留学生対応科目小委員会」を、3センター（教育支援センター、教養教育センター、入試・学生支援センター）が参画する「留学生対象科目委員会」として拡大し、センター間の緊密な連携体制を整備した。

(5) 相談サポート専門部会の新設

個々の学生に対する事例検討や包括的支援に必要な方針を検討し、特別な配慮を要する学生への支援を充実させるため、入試・学生支援センターの下に「相談サポート専門部会」を新設した。

(参考) 2021年4月1日からの新研究所体制

学術研究情報センター (センター長: 教育福祉学部 教授 宇都宮 みのり)

研究推進局 (局長: 情報科学部 准教授 神谷 直希)

研究所の統括。自治体や企業、関連団体からの寄付受入、共同研究、受託研究等の相談窓口、研究所等の活動を支援します。

ICT テクノポリス研究所 (所長 情報科学部 准教授 神谷 幸宏) [情・外・教]

ICT 技術の見地からスタートアップ集積地としての愛知県の新しい価値創造を目指して、本学が有するモノのインターネット「IoT」と人工知能「AI」技術の成果を、県内の自治体・企業・大学などと連携しながら展開し、愛知県におけるスタートアップ企業の設立を支援していきます。

次世代ロボット研究所 (所長 情報科学部 教授 村上 和人) [情・看]

「人とロボットが共生・協調する社会」の到来を見据えて、「人とロボット」、「ロボット同士」の動作・協調に関する研究を推進し、さらに、インタラクション関連技術や三次元センシング技術等の基盤的要素技術の研究開発を行い、県内の自治体・企業・地域社会などと連携し、愛知県の産業振興に貢献していきます。

生涯発達研究所 (所長 教育福祉学部 准教授 三山 岳) [教・外・看]

愛知県内の教育や福祉、看護の現場を素材にして、発達障害や外国にルーツを持つ子ども、医療的ケア児、いじめ、不登校、虐待、貧困など多様な社会的課題に多職種連携による解決方法を模索し、また、外国人高齢者の実態を明らかにし、看護・介護・緩和ケアの各段階における外国人高齢者の課題解決を支援していきます。

多文化共生研究所 (所長 外国語学部 教授 小池 康弘) [外・教・看・情]

地域社会のグローバル化、多言語多文化化の進展に伴う課題を明らかにし、多文化共生社会の構築にむけた研究を行います。たとえば、在住外国人の医療、福祉、教育、雇用、言語、文化などの諸問題について、本学の様々な分野の専門家が結集し、地域社会、行政などと連携して他の大学に類をみない体制で研究を進めていきます。

人間の尊厳と平和のための人文社会研究所 (所長 日本文化学部 准教授 柴田 陽一) [日・外・教]

人文社会研究の根底にある「人間の尊厳と平和」を、地理学・歴史学・社会学・文学等の学際的アプローチにより、多元性に焦点をあてた新たな地域「誌」の創出や、人々の移動や異文化の接触によって引き起こされる変容に焦点をあてた地域社会の分析等を通じて、地域に即した視点から研究を進めていきます。

“まもるよ ちいさないのち！” 地域災害弱者対策研究所 (所長 看護学部 教授 清水 宣明) [看・教]

南海トラフ地震の発生等による津波や災害から、「とにかく逃げる」ことが難しい乳幼児、妊産婦、障害者、傷病者、高齢者などの災害弱者の命を守るために、「地域災害対策システム構築」の研究を進め、施設の立地環境に応じた、現実的かつ具体的な災害対応の教育・実践活動を支援していきます。

地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト (代表者 情報科学部 教授 奥田 隆史) [情・教]

ニューノーマルな時代を見据え、地域コミュニティにおける社会学・社会福祉学の手法による社会調査結果を反映させながら、幼少期の「遊び」だけでなく、高齢者の介護予防・孤立防止のための「遊び」などあらゆる世代における「遊び」を、情報科学の手法を用いて研究開発します。

[] 内は、構成員の所属学部 (外: 外国語学部、日: 日本文化学部、教: 教育福祉学部、看: 看護学部、情: 情報科学部)

6. 学長特別教員研究費

【県立大学】

(概要)

専任教員の学術研究を奨励し大学の発展に寄与するため、学長が予算の範囲内で選考・交付する学内の競争的研究費です。独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業に応募し、不採択となった者を対象とする「科研費採択奨励研究」、39歳以下の者を対象とする「若手研究」、従来の自身の研究とは異なる新しいテーマに挑戦する者を対象とする「チャレンジ研究」の区分のほか、2020年度は他学部や産学公と連携する者を対象とする「共同研究（他学部・産学公）」の区分を新設し、3件の採択を行いました。

(「共同研究（他学部・産学公）」採択実績)

(1) COVID-19による外国籍住民の生活危機と対策をめぐる基礎研究

研究者：教育福祉学部教員、外国語学部教員

採択区分：他学部

採択金額：342千円

内容：日本で暮らす外国籍住民、技能実習生、教育現場や外国人支援団体等にインタビュー調査を実施。
コロナ禍での失業や収入減少、ビザの関係で副業ができないことなどの問題、セーフティネットやNPO等による支援の現状などを明らかにした。

(2) 愛知県における外国人診療および医療通訳に関する研究

研究者：外国語学部教員、看護学部教員、他大学教員、県職員

採択区分：他学部・産学公

採択金額：994千円

内容：あいち医療通訳システム（AiMIS）の利用実態について、保健所及び医療機関、患者、通訳者などにアンケート調査を実施。
日本語でのコミュニケーションが難しい外国人患者・家族への対応方法、外国人診療や医療通訳に対する医療機関の意識、AiMIS登録通訳者が業務で抱える課題などを明らかにした。

(3) コウモリの超音波採音と環境DNAによる分析を組み合わせた生息調査

研究者：看護学部教員、公的研究機関

採択区分：産学公

採択金額：370千円

内容：河川や池などの水や土壌から抽出される環境DNAを解析する手法を地域の生態系調査に導入し、生物多様性の観点から健康と疾患を捉える研究に着手した。

7. 愛知県との連携に関する取組

【県立大学】

(概要)

愛知県との連携（事業の共催、ボランティア活動の学生等への協力依頼、審議会等委員への就任、愛知県立大学のキャンパスの利用、イベントへの参加・出展等）を一層推進するために、愛知県庁7部局と地域連携に関する会合（訪問2回・来学2回・意見交換会3回）を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2019年度と比較すると会合の回数は減少しましたが、質の高い検討の場となりました。こうした会合の結果、2019年度から継続の共催事業2件（あいち医療通訳システムに関する協力大学として推進協議会代表者会議および通訳養成専門会議に出席、活動フォーラムでの学生の活動報告）、2020年度の新規の共催事業2件（以下の表の通り）の実施につながりました。

	形態	実施回数（部局数）	2020年度新規の共催事業・地域貢献活動(*4)
地域連携に関する会合・共催事業等	訪問(*1)	2回(2部局)	
	来学(*2)	2回(2部局)	
	意見交換(*3)	3回(3部局) ①多文化共生推進室 ②高齢福祉課 ③教育委員会高等学校教育課	① 県と連携して行う共同研究「愛知県における外国人診療および医療通訳に関する研究」 ② 連続講座「あいちシルバーカレッジ」拡充に伴う専門コースのカリキュラム作成・監修（共催事業）
	計	7回(7部局)	2件

(*1) 訪問：ニーズ把握のため地域連携センターが県の関連部署を訪問

(*2) 来学：事業等の要請のため県の各部署が地域連携センターに来学

(*3) 意見交換：県の関連部署と本学の複数の関連学部・研究所等が関わって、具体的な共催事業や地域貢献活動の実施に向けて検討するために設ける会合

(*4) 共催事業・地域貢献活動：訪問・来学・意見交換会によって実現した、当該年度の新規共催事業あるいは地域貢献活動（協定締結、審議会委員等への協力、学生ボランティア活動は除く）

8. 「認知症に理解の深いまちづくり」事業に関連した取組

【県立大学】

(概要)

愛知県が2017年に策定した「あいちオレンジタウン構想」に基づく「あいちオレンジタウン構想第1期アクションプラン」および、2020年に策定した「あいちオレンジタウン構想第2期アクションプラン」の基本理念である「認知症に理解の深いまちづくり」の実現に向け、「あいち認知症パートナー大学」として、様々な取組を行っています。主な取組は以下の通りです。

(2019年度)

1. 学生を対象とした認知症に理解のある人材育成
 - ① 認知症ボランティア説明会、認知症ボランティア学習会などの開催
2. 学生の活動支援
 - ① 長久手市「大学連携提案事業助成金事業」に「明日を共に生きるカフェ『あすともカフェ』」一地域の防災における認知症当事者家族と地域、学生の有機的連携」を申請し、採択された学生ボランティア団体の活動を支援
3. 地域住民対象（認知症に理解のあるまちづくり）
 - ① 認知症VR体験講座の開催（県福祉局高齢福祉課との共催）
4. 地域への発信
 - ① 本学図書館内に「オレンジ本棚」（認知症関連図書・DVD等をまとめて閲覧できるコーナー）および、本学が「あいち認知症パートナー大学」であることを示す案内版を設置

(2020年度)

1. 学生を対象とした認知症に理解のある人材育成
 - ① 認知症サポーター養成講座の開催
2. 学生の活動支援
 - ① LINKtopos（全国公立大学学生大会・オンライン）において、高齢者の孤立予防を目的とした学生の自主活動の動画作成と発表を支援
3. 地域住民対象（認知症に理解のあるまちづくり）
 - ① 長久手市の認知症カフェ「喫茶オレンジ」の企画・運営に協力し、オンライン・カフェの開店を支援するとともに、学生の傾聴ボランティアとしての参加を支援
4. 協定・研究活動
 - ① 県と「認知症高齢者の災害時支援に関する連携と協力に関する協定」を締結
 - ② 教員による研究「認知症対応型グループホームを拠点とした災害時要援護者支援モデルの構築と地域展開」の開始

9. グローバル人材育成事業

【県立大学】

(概要)

新しいグローバル時代を切り拓くという強い意志とチャレンジ精神を持った学生を育成するとともに、地域の課題解決に貢献することを目的に、2012年10月から2017年3月まで外国語学部で展開した「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム」を継承し、2017年度から全学プロジェクトとしての「新グローバル人材育成事業」を展開しています。

○グローバル実践教育事業

従来からの“語学力養成”に加え“異文化理解・多文化共生”を重視し、大学が持つ文・理5学部の視点から、地域のグローバル化に伴う諸課題に取り組み、解決する力を養うプログラムになっています。

プログラムの履修科目には、フィールドワークやPBL型授業をはじめとした学部を横断した実践型科目を組み込み、全学部に、教養教育科目と専門科目で構成される19～26単位のプログラムを設置しています。従来のプログラムとは異なり、すべて正規科目として卒業単位に含むことができるため、学生もチャレンジしやすいものとなっています。

さらに、iCoToBa（多言語学習センター）の全学利用により、英語コミュニケーション講座、留学前準備講座・検定試験対策講座等に加え、各学部の特色に合わせた地域コミュニティ言語講座（教育・看護・防災等）や本学教員や外部有識者を招き多彩なテーマを取り上げるグローバルセミナーを実施しています。

また、2021年3月でいったん活動を終了した通訳翻訳研究所を「iCoToBa 分室」として、多言語学習の機能拡充を図り、社会連携に役立つ語学運用能力の向上と人材のネットワークづくりを推進してゆくことになりました。

○グローバル学術交流事業

教員（研究者）の国際研究交流活動を全学事業として実施し、さらにその活動を教育へとフィードバックする取組です。海外研究者およびグローバルな視点で活躍する国内研究者の招聘により、国際的な研究交流（教員）及び教育交流（学生）を行うことで、本学のグローバル化の更なる推進を目指します。

本事業の推進母体として設置したグローバル学術交流推進委員会において、毎年テーマを一つ定め、そのテーマに沿った海外研究者およびグローバルな視点で活躍する国内研究者を招聘し、教員同士の研究交流及び学内講演会を実施します。また、それらを教育にもフィードバックするため、年度ごとのテーマに即して、専門科目や教養教育科目「グローバル社会の諸問題」との連携を強化し、大学院生や留学生を含めた討論を組み込み、全学規模で事業を遂行しています。講演会およびそれに付随するシンポジウムなどを通じて、本学の教員・学生・大学院生が、キャンパスにいながらにして国際的な交流を行うことができるとともに、その経験を通して、研究のグローバル化や、学生の自主性と探究心、及び展開力をさらに高めることを目指した取組です。

10. 災害弱者対策・支援プロジェクト

【県立大学】

(概要)

南海トラフ地震による甚大な被害が予想されている愛知県において、災害を身近な問題として捉え、乳幼児、高齢者、傷病者、障害者、外国人などいわゆる災害弱者に目を向けることは、災害の際に自分達のいのちを守る方法や災害対策・支援の本質を捉えることにつながります。

『災害弱者対策・支援プロジェクト』は、“「いのち」の学びと探究”という本学のビジョンを反映した活動であり、文系・理系を含めた5つの学部から成る本学の特徴を活かし、災害弱者やその支援に関わる教育・研究・実践の底力を県民に発信すると同時に、今後、災害弱者対策・支援に関わる研究・教育・実践の拠点になることを目指すものです。

この目的を達成するため、2019～2020年度の2年間にわたり、学内外に向けた様々な企画・活動を実施しました。

【2019年度】

実施日	企画・事業名	内容
11月13日～ 11月27日	防災展示「防災グッズからふりかえる日頃の防災意識」	教職員の防災意識を高めるため、防災グッズ、関連図書、備蓄品等を展示。
11月20日 (79名参加)	講演会「愛知の災害弱者のいのちを守る」	看護学部清水宣明教授による災害弱者対策等に関する講演。
2月20日	名古屋市東区役所との災害対策事業協定締結	子供のいのちを守るための災害対策事業協定。互いに連携しながら、保育園を拠点とした災害弱者対策事業等を推進。

【2020年度】

実施日	企画・事業名	内容
11月1日 (110名参加)	シンポジウム「愛知県は災害にどう向き合えるかー5学部からのアプローチ」	5学部で行っている「命の尊厳」や災害弱者支援等に関わる教育・研究成果の発信、及び災害弱者対策に関する県民との意見交換等を実施。
2月1日(公開)	記念動画「愛知県は災害にどう向き合えるかー5学部だからできることー」	各学部で進行中の災害弱者対策・支援に関わる教育研究活動の具体的な取組を紹介。

その他、関連企画として、連続公開講座「大災害から命を守る」(2020年9月19日)、学術講演会「大災害から命を守る～情報社会、超高齢社会の防災・減災～」(2020年11月8日)等を開催。

11. 国際戦略方針に基づくアクションプラン

【県立大学】

(概要)

2019年の「国際戦略方針」に基づき、大学構成員の国際交流活動を活性化し、大学のグローバル化をいっそう推進するために、3つの領域（教育・研究・環境）にわたる10のアクション対象分野を設定し、41の具体的な活動から成る「アクションプラン」を策定し公開しました。

1. 3つの領域

- (1) 海外留学と異文化間教育の活性化（教育）
- (2) 専門分野を横断する国際的研究への挑戦（研究）
- (3) さらなる国際化を目指す大学づくり（環境）

2. 10項目のアクション対象分野

- I 異文化共感力を高めるための学内教育
- II 多様な文化的背景をもつ学生の受入と教育支援
- III 違いを認め合い国際平和に資する異文化間教育
- IV 充実した留学を実現するための体制
- V 国際学術交流の新展開
- VI 国境を越え専門を横断する研究体制
- VII 地域と共に生み出す多文化共生社会
- VIII 教職員の国際化とグローバル社会への対応能力
- IX 魅力ある大学国際戦略の策定と実行
- X 異文化間交流のための学内環境整備

(国際戦略方針に基づく2020年度取組内容)* (カッコ内はアクション対象分野項目番号)。

1. 「国際戦略室」の設置とアクションプランの策定

4月に始動した国際戦略室は学内の各部局ごとの国際的な活動実績を精査し、現状に即しつつ、大学全体として41項目のアクションを目標として具体化しました。国際戦略室が示す大学全体のグローバル化の活動目標が、各部局の取組によって実施されていく仕組みです。国際戦略室が主導したものとしては、学部間の学生共同研究「SDGs Aichi Expo 2020」への参加やタシケント国立東洋学大学（ウズベキスタン）主催のフォーラムでの大学院生の研究発表（III）、さらに同大学主催の国際会議への学長と教員の研究発表（V）があります。

2. アクションプラン実施のフォローアップ体制

国際戦略室会議がアクションプランの実施状況を確認し、進捗状況に応じて関係部局からの意見聴取や調整をおこなう基本体制が整えられました。従来、戦略企画・広報担当副学長の所管とされたグローバル人材育成調整会議を国際戦略担当副学長へ移管することで、アクションプランの部局間実施とフォローアップの体制が強化されました（IX）。

12. アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業

【芸術大学】

(目 的)

アーティスト・イン・レジデンスは、国内外の著名なアーティスト等の滞在型招聘により、本学の学生・教職員と交流事業を実施し、本学の国際化、芸術創造能力の向上を図ることによって、広く国際交流・文化振興に寄与することを目的とし2007年度より実施していますが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでした（一部、2021年度に延期し実施予定）。

外国人客員教員による事業は、複数名の演奏家や作曲家を外国人客員教授として長期（2年間）または短期（2～6ヶ月間）で招聘し、授業や交流事業を実施することで、世界水準を肌で感じられる音楽教育を行うことを目的としています。

(内 容)

(1) 外国人客員教員による事業

① 招聘者（音楽分野4名）

- ・イリーナ・チュコフスカヤ（グネーシン音楽大学教授）

雇用期間：2019年4月15日～2021年3月31日（2019年度より継続）

- ・フェデリコ・アゴスティーニ（イーストマン音楽学校教授）

雇用期間：2019年5月1日～2021年3月31日（2019年度より継続）

- ・ユハ・タパニ・コスキネン（作曲家）

雇用期間：2020年10月13日～2020年12月22日（2020年度新規）

- ・ユベール・スダーン（指揮者）

雇用期間：2020年11月22日～2021年3月31日（2020年度新規）

② 特別講座等

- ・愛知県立芸術大学管弦楽団 第31回定期演奏会（ユベール・スダーン指揮）

(2) アーティスト・イン・レジデンス

2020年度は実施なし

13. アウトリーチプロジェクト

【芸術大学】

(概 要)

本プロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ芸術家が出向いてアートを届ける活動のうち、届け先を病院に絞った「病院アウトリーチ」を実践するもので、本学の音楽・美術の両大学院生を対象に病院における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

大学院音楽研究科「アート・マネジメント」、美術研究科「プロジェクト研究」の授業を拡大し、病院における芸術活動に特化した音美合同の講座を 2017 年度より開設しています。受講生は、前期でアウトリーチの特色である対象者とのコミュニケーションに基づいた企画の実践として、子供向けアウトリーチを保育園や児童館等で行った後、後期で病院に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実践できる」スキルを身に付けます。

医療における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していません。本学においてそれに関わる芸術家が育成されることで、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

また、本プロジェクトでは病院アウトリーチを行うアーティストの育成にとどまらず、病院における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も視野に入れた活動です。2019 年度は、藤田医科大学病院において、従来の 1 階でのコンサートに加えて小児病棟でのコンサートを開始したほか、強い希望のあった名城病院や白山リハビリテーション病院、障害者支援等を行う施設などに活動の場を広げ、訪問先の患者に合わせたプログラムを検討して実施するなど、それぞれの病院の特性やニーズに合わせた取組を行いました。また、このプロジェクトが芸術教育自体に新たな可能性を開くものであることを提示する目的で、7月にシンポジウム「芸術教育の新たな可能性～愛知芸大「病院アウトリーチプロジェクト」がめざすもの」を開催し、本プロジェクトの今後の道筋を社会に問いかける機会を作りました。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で病院では実施できなかったが、保育園において実施しました。また、各施設で視聴してもらおうための演奏動画を試作しました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

【2020 年度の活動場所】

(1) 保育園

尾張旭東部保育園

14. 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻

【芸術大学】

(概要)

メディア映像専攻は、現代社会のコミュニケーションツールとなっているメディア映像や先端的な技術をベースとしたデザイン・芸術にアプローチし、新たなメディア映像表現を開拓することに挑戦します。

このことを実現するため、これまでの芸術の枠にとらわれずに分野・領域を柔軟に横断する独自の少人数教育でカリキュラムは構成されています。

学生は、メディア映像のスペシャリストになるための基礎的デザイン造形力を習得し、デジタル映像やアニメーションの制作技術、CGを利用したVFX・ARコンテンツデザインなどを始めとする、ポストブロードキャストを視野においたメディア映像表現の可能性を追求していきます。

さらに、デジタルアート&エンタテインメント・デザインとしてのメディア企画、アドバタイジングデザイン、メディアアート、デジタルアーカイブ、メディア映像文化研究など、新時代のアクティビティの多様性を学びます。

このように高度に情報化した社会に対するプロデュース能力を身につけていくことによって、様々な映像やメディアを通じた表現を新たなイメージで創造できるデザイナーやアーティストの育成をめざしています。

[現行]

学 科	専 攻
デザイン ・工芸科 〔入学定員 45人 (180人)〕	デザイン専攻 〔入学定員 35人 (140人)〕
	陶磁専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕

専攻の
新設
➡

[2022年度～]

専 攻	
デザイン専攻	〔入学定員 25人 (100人)〕
メディア映像専攻	〔入学定員 10人 (40人)〕
陶磁専攻	〔入学定員 10人 (40人)〕

※()内は収容定員

15. 芸術大学におけるキャリア支援

【芸術大学】

(概要)

近年の芸術学生は、卒業後すぐに自立を目指す傾向が強く、就職希望者が急増していることから、大学におけるキャリア支援の重要性が高まっています。

本学では、学生それぞれが学ぶ芸術の専門分野を活かして就職活動を進められるよう、独自に企画したガイダンスの開催等により学生を支援し、高い就職率を達成しています（2020年度実績：就職内定率81.6%）。

(実施状況)

キャリアサポートガイダンス：8回実施（2019年度：27回実施）

新型コロナウイルス感染症の影響により、本学独自ガイダンスのほとんどを中止とした。

ガイダンスの種類	内 容（オンライン実施）
就職ガイダンス	就活準備スタートアップガイダンス、マナー講座、インターンシップガイダンス、インターンシップ体験報告会、業界研究セミナー（マスコミ・エンタメ）、内定者体験報告会、筆記試験（SPI）対策講座、芸術学生のための合同企業説明会

16. 新サテライトギャラリー SA・KURA

【芸術大学】

(概要)

名古屋栄のサテライトギャラリー閉廊から1年9ヶ月を経て、2019年6月に栄北（オアシス21至近）に「サテライトギャラリーSA・KURA」を開廊しました。

2部屋に仕切られていた旧ギャラリーとは異なり、新ギャラリーは天井が高いオープンスペースで展示会場に適していることに加え、愛知県美術館が隣接する立地を活かした来場者数の増加が期待できます。

また、ギャラリーの名称には、大学の研究や教育成果をアピールする場所として、県民や市民の記憶に残り親しみやすい名称がふさわしいとの考えや、地名である東桜の一文字を取り入れることで、地域や社会と連携する意図を込めています。

S=Satellite・サテライト

A=Aichi Art・愛知アート・AUA

KURA=蔵／研究や資料などの宝物を、ここから発信する拠点としての蔵

SA・KURA=東桜町の地名

<2020年度実施の展覧会一覧>

展示名称	日数	入場者数	一日平均
収蔵品展Ⅰ 共鳴する絵画	15	153	10
設楽知昭退任記念展	26	565	22
収蔵品展Ⅱ 絵画の生まれる場所	15	148	10
干支展（丑）	3	97	32
A THIN LINE カールスルーエ芸術大学学生ドローイング展	12	82	7
象られた土、広がる庭	14	378	27
博士学位論文・作品展	8	90	11
小栗 沙弥子展 「地面を壁を歩く（アフターピニエロス）」	14	186	13
合計	107	1,699	16

※2020年4月～8月は新型コロナウイルスの影響により休廊。

※2021年1月に開催予定だった第3回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2020 は、新型コロナウイルス感染症拡大により延期し、芸大キャンパス芸術資料館で2021年5月に開催。

17. 教員による芸術活動の主な実績

【芸術大学】

<美術学部>

氏名	業績
阿野 義久	<ul style="list-style-type: none"> ・阿野義久展 『蒼風』豊田市 ・笠の会 名古屋展 東京展 ・THREE POSITION+ うしお画廊(東京銀座)
井出 創太郎	<ul style="list-style-type: none"> ・INDIRECT' 21(愛知) ・井出創太郎銅版画展『piacer d'amor bush<版と言葉/DD>(岐阜)
関口 敦仁	「メセナ事業におけるメディアアート展示アーカイブ展」企画・開催(アートラボあいち)
岩間 賢	<ul style="list-style-type: none"> ・房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+への出演 ・違いを超えた出会いで表現を生み出すアートプロジェクト TURN 招聘アーティスト兼研究者として参加
吉村 佳洋	<ul style="list-style-type: none"> ・第75回春の院展「融点」 外務大臣賞・奨励賞受賞 ・前田青邨顕彰中村賞受賞 ・再興第105回院展「夜会」 大観賞受賞
佐藤 文子	<ul style="list-style-type: none"> ・公募展:「東海伝統工芸の今～第51回東海伝統工芸展より～」愛知県陶磁美術館 ・企画展:「第80回瀬戸陶芸協会展」瀬戸信用金庫本店ギャラリーひまわり ・「100年へ向かう道—瀬戸陶芸協会展」名古屋栄三越美術画廊
阪野 智啓	<ul style="list-style-type: none"> ・個展「武者を描く—阪野智啓日本画展」、アートサロン光玄(名古屋市) ・公募展「第105回再興院展」および「第76回春の院展」入選 ・学会発表「豊田市指定文化財「守綱寺本堂障壁画」の修理報告」、第42回文化財保存修復学会
小西 信之	・ロザリンド・クラウス著『アヴァンギャルドのオリジナリティー—モダニズムの神話』 翻訳
森 真弓	・日本映像学会中部支部研究会、研究発表
森北 伸	・THE TOWER HOTEL NAGOYA(名古屋テレビ塔)内に、彫刻作品1点、絵画作品2点を設置。
神田 每実	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・コーディネイト 種倉プロジェクト—学びの里プログラム「種蔵の景観を学ぶ」/ TNANEKUTA HOUSE 及び種蔵地域 ・「マテリアル(素材)の発見」 / あいちアール・ブリュットサテライト展新企画 / あいちアール・ブリュットサテライト展「マテリアル(素材)の発見」の企画・展示及び監修 ・「価値について2021」 / 第70回中部二科展 / 愛知県美術館(8F)ギャラリーでの作品発表
清水 由朗	<ul style="list-style-type: none"> ・再興第105回院展 出品 ・第76回春の院展 出品及び審査・展覧会図録表紙絵、ポスター担当 ・個展 タイトル「時の音色」
倉地 久	<ul style="list-style-type: none"> ・-HUMIDITY-Printmaking & Photographic works Exhibition 2021 Hisashi KURACHI & Kana SONODA 写真家との2人展 ・ロシア国立東洋美術館作品収蔵 大型版画作品2点出品
大崎のぶゆき	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁:令和2年度新進芸術家海外研修制度(長期研修)採択 ・展覧会:Linking Transformations ドイツ・キール市のミュージアムでの企画展に出品 ・個展:大崎のぶゆき「不可視とは可視であり、ただ未可視なだけ」ガレリア フィナルテ(愛知) ・Project:[m@p]meet @ post :2st. group に参加 ・展覧会「ら抜きの仕事」の企画 アートラボあいち
竹内 孝和	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 KSCS International Invitation Exhibition で優秀賞受賞。 ・A THIN LINESA・KURA Gallery(栄) ドイツのカールスルーエ美術大学との国際交流ドローイング展を企画 ・象られた土、広がる庭 SA・KURA Gallery(栄)を企画し参加
中谷 聡	<ul style="list-style-type: none"> ・新作制作協会彫刻部会員小品展出品 東京銀座ギャラリーせいほう、 ・第7回花とみどり・いのちと心展出品、国営昭和記念公園花みどり文化センター ・全国公募第24回美濃茶盤展入選
猪狩 雅則	個展「葉は葉 絵に」 開催場所:see saw gallery +hibit
田上 知之介	<ul style="list-style-type: none"> ・seed展 vol.3(GALLERY IDF) 企画および作品出品 ・第3回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD の企画運営

平川 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ・Spirit and Endeavour(イギリス):ソールズベリー大聖堂の800周年を祝祭した現代アートのグループ展に出品。 ・「境界のかたち、大府市」グループ展に出品。 ・「ストーリーミング・ヘリテージ 2021 台地と海のあいだ 名古屋市内各所」グループ展に出品。
高橋 伸行	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬくもりの里 やさしい美術作戦事業 社会福祉法人豊田市社会福祉協議会の事業のディレクターを務める。 ・Artist's Breath インスタグラムプロジェクト ・コロナ禍で中止に追い込まれた、芸術祭参加アーティストによる動画配信プロジェクト。
＜音楽学部＞	
井上 さつき	<ul style="list-style-type: none"> ・学会発表 日本音楽学会第71回全国大会 武蔵野音楽大学(Zoom開催) 1920年代の日本楽器製造(現ヤマハ)について—箕輪三郎文書を通して— ・国際シンポジウム「万博学」(京都大学)にて「万国博覧会と「ピアノ」の誕生」発表
花崎 薫	<ul style="list-style-type: none"> ・ベートーヴェンピアノトリオのタバ—名手たちの三重奏— 宗次ホール ・エルデーディ弦楽四重奏団演奏会 晴海 第一生命ホール ・ベートーヴェン チェロとピアノのための作品演奏会 産院いしがせの森スタジオフォーレ
桐山 建志	<ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルト:ヴァイオリンソナタ全曲演奏の録音を、編集してCD化(8枚組)する。 ・ベートーヴェン生誕250年にあたり、ヴァイオリンソナタ全曲演奏会を行う。
山本裕之	<ul style="list-style-type: none"> ・新作《無言歌》を含むCD「Homage to Franco」リリース ・新作《相対性カノン》の初演 両国門天ホール ・《太平洋》の日本初演 ドルチェアートホール Nagoya
小原 啓楼	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバム「NESSUN DORMA~NON SHALL SLEEP」各音楽配信サイトにてリリース ・東京二期会『フィデリオ』フロレスタン役 ・交響曲「海道東征」CD発売 ・東京交響楽団名曲全集第162回(後期)ベートーヴェン/交響曲第9番 ・東京交響楽団東京オペラシティシリーズ第119回 ベートーヴェン/交響曲第9番 ・びわ湖ホールプロデュースオペラ『ローエン格林』ローエン格林役
小林 聡	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽オーケストラのための新作 が、2020 PUENTE Festival Interoceánico で初演(ライブ配信)
森 寿美	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立芸術大学オペラ2020 モーツァルト 歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ役 ・CDリリース、配信:シューマン歌曲集『ミルテの花』2021年1月 ・名古屋市立大学×名古屋市文化振興事業団 連携協定記念コンサート 歌曲演奏
森川 栄子	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家とのコラボレーションによる無伴奏声楽曲の演奏会を12月に実施した。
水野 留規	(翻訳)早魃の段および二兵士による旅の段—『解放されたエルサレム』第13歌途中から第15歌冒頭まで
成本 理香	<ul style="list-style-type: none"> 【作曲作品】・《Toward the Forest for piano》(初演)・《FIFTY DAYS for piano》/2020年8月/50歳最後の50日間毎日1日1曲作曲して50曲のピアノ曲を作曲するという一人プロジェクトを完遂。・《境界・おにぎりの歌・分断》〜トイピアノのための(初演)(自作自演/RICAMON Vol.4 - 成本理香門下作品演奏会・《Illuminated Windows II for piano》(レコーディング初演)/Da Vinci Classics よりリリースされたCD『Homage to Franco: Japanese & Italian Contemporary Piano Works Inspired by Franco Donatoni』に収録
渡邊 玲雄	<ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブル of トウキョウ定期演奏会 東京文化会館小ホール ・八ヶ岳リゾナーレ音楽祭 八ヶ岳高原音楽堂 ・アンサンブル of トウキョウ定期演奏会 紀尾井ホール
福本 泰之	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立芸術大学オペラ2020 歌劇コジ・ファン・トゥッテ 録音参加 ・愛知県立芸術大学 弦楽合奏第15回定期演奏会 三井住友海上しからわホール 指揮者出演
北住 淳	<ul style="list-style-type: none"> ・トリオ ミンストレル 大阪演奏会 豊中市立文化センター ・ランチタイム・コンサート vol.11 魔界からの誘惑 大阪いずみホール
東谷護	<ul style="list-style-type: none"> ・東谷護(編著)、『復刻資料「中津川労音」—1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る—』、風媒社、2021年3月、358ps.
大塚 直	<ul style="list-style-type: none"> ・東京演劇アンサンブル・ホルヴァート生誕120年記念公演『ウィーンの森の物語』の翻訳・ドラマトゥルクを務める。

18. 美術学部教員展のVR開催

【芸術大学】

<概要>

美術学部では作家として活躍する教員の近年の作品や研究を学内外に広く公開する機会として、毎年教員展を開催している。

第45回美術学部教員展については、新型コロナウイルス感染症対策のため、展示中止又は人数制限による学内限定で開催の方向で進んでいたが、3DVRサービス事業を行っている「ドリフト・フォトグラフィー」から、本学の展示のVR化について協力の申し出があり、バーチャル・ギャラリーつまりVR（バーチャルリアリティ）開催が実現した。

実際の展示を行い、展示会場において、作品や空間を三次元データに変換する3Dスキャニングカメラを使って撮影し、三次元モデルに変換する。それをWEB上に構築し、VR空間となった芸術資料館の内部を移動できる展示となった。

小さい作品から、映像の作品までバリエーションがあり、撮影も困難であったが、展示の新しい形として提案ができた。

<実施状況>

公開場所 芸術大学ウェブページ

公開日 2020年11月18日（水）～

VR撮影 DRIFT PHOTOGRAPHY

企画 愛知県立芸術大学 美術学部

出品者 日本画専攻、油画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻、陶磁専攻 計39名

19. 収蔵品展

【芸術大学】

(1) 収蔵品展Ⅰ「ReOPENING 共鳴する絵画」展

日時：2020年9月11日（金）～9月27日（日）

場所：サテライトギャラリーSA/KURA

<概要>

サテライトギャラリーSA・KURAの新たな再開（ReOPENING）を記念し、第1期生から10年間の中で選りすぐりの絵画作品9点を紹介した

<展示作品>

- ・山名千佳子《蓮》1970 紙本着色
- ・久保田裕《人物構成》1972 油彩、カンバス
- ・秦誠《エスカレーター》1976 紙本着色
- ・稲垣考二《空虚な西日》1976 油彩、カンバス
- ・飯田泰子《レクイエム》1977 紙本着色
- ・長谷川龍彦《機械調節器》1977 板にカゼイン地、油彩
- ・宮本英雄《9時の女》1979 油彩、カンバス
- ・横山恵《Facing You》1974 油彩、カンバス
- ・臼井泉《Looking Movie》1974 紙本着色

(2) 収蔵品展Ⅱ「絵画の生まれる場所」

日時：2020年11月13日（金）～11月29日（日）

場所：サテライトギャラリーSA/KURA

<概要>

収蔵品展Ⅰに続く、第二弾として、1980年代に卒業・修了した学生の中から、絵画を探求し、独自の創作を続けた8人の油画作品を紹介した

<展示作品>

- ・近藤珠実《うさぎと一緒に捜した風景》1982 油彩、カンバス
- ・小谷浩士《闇の水面Ⅰ》1982 油彩、カンバス
- ・染谷亜里可《オーキスの部屋》1984 油彩、カンバス
- ・加藤英人《風景の見える食卓》1986 油彩、カンバス
- ・倉地比沙支《ウォッチマンのささやき》1986 油彩、カンバス
- ・長谷川繁《「UNTITLED」》1988 油彩、カンバス
- ・山本輝《田んぼのある風景》1990 油彩、カンバス
- ・原勉《HorizonⅠ》1983 油彩 カンバス

20. あいちトリエンナーレ芸術大学連携プロジェクト

【芸術大学】

(概要)

あいちトリエンナーレが取り組んできた先鋭的な芸術の創造を継承し、発展させていくことを目指して設立されたアートラボあいちを拠点として、2016年より、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の県内3つの芸術大学による企画展示を行っています。

各大学の境界を超え、若いアーティストたちの飛躍を期待するものとして毎年展覧会を開催しています。

(内容)

(1) 開催場所

アートラボあいち（大津橋）

(2) 企画内容

○2020～2021年度大学連携プロジェクト[アートマネジメントアカデミー2020]

期間： 2020年10月～2021年3月

内容： アートラボあいちと3大学による人材育成プログラム。3大学から推薦された参加学生がアートラボあいちで開催される企画展を運営することに携わります。実践内容に即したワークショップやゼミを受講することで、現場に必要なスキルを学びます。

※本学からは2名（美術研究科デザイン領域1名、美術学部芸術学専攻1名）、が参加。ゲスト講師として、芸術学専攻小西教授がゼミを担当。（2021年3月13日実施。）

<愛知県立芸術大学独自企画>

○本学主催展覧会「ら抜きの仕事」来場者数 552名

会期： 2020年7月23日～8月30日

内容： 3名のアーティストによる展示、アーティストトーク上映

出品作家のジェンダー平等を掲げた「あいちトリエンナーレ 2019」の意義を踏まえながら、女性のアーティストや活躍する女性の卒業生に焦点を当てています。現代のアートシーンのプレイヤーを男性が多く占めている他方で、昨今の美術大学や芸術大学では女性が学生の多くを占め、本学においても8割ほどの学生が女性です。ゲストアーティストとして近年「女性と社会」を巡る作品を制作する谷澤紗和子氏を招き、本学出身の二人の若手作家近藤佳那子、後藤あこと共に、それらの意義を再検討する試みです。

21. あいちアール・ブリュット障害者アーツ展

【芸術大学】

(概要)

あいちアール・ブリュットとは、愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

2020年度は、2021年2月9日から2月14日に開催された「あいちアール・ブリュット サテライト展」において、本学学生、教員が以下の企画で展示監修を行いました。

(参加企画)

「マテリアル（素材）の発見」をテーマに、立体作品に焦点を当て、愛知県陶磁美術館、愛知県立芸術大学、福祉施設等のコラボ展示

(参加者)

“マテリアル（素材）の発見”企画チーム

／愛知県立芸術大学大学院美術研究科プロジェクト研究1・8&愛知県陶磁美術館

・担当教員

美術科 彫刻専攻 神田 每実 教授

デザイン・工芸科 陶磁専攻 佐藤 文子 准教授

・学生

美術研究科 博士前期課程 1年生以上

22. 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組

【芸術大学】

(概要)

芸大のブランドや知名度のより一層の向上を目指すため、大学WebサイトやSNS等の情報発信ツールの充実を図り、育研究、地域・社会貢献活動などに関する情報発信・広報を行っています。

(1) 全学広報プロジェクトチーム (2020年度)

学長 戸山俊樹

副学長 岡田眞治

学長補佐・広報(入試)委員会委員長 安原雅之

学長補佐 白河宗利

広報(入試)委員会委員 春田登紀雄

事務部門長 ロベル智子 他

(2) ブランディングのための指針 2020

以下の①～③の進め方でブランド力向上を目指す。

①現状の認識：客観的な支店から本学の現状を認識、愛知芸大ブランドの本質的価値を発見

②ブランド展開：ブランドコンセプト等を定義、ブランド展開のための計画を策定

ブランドスローガン：「芸術の森」で学び、つながる。

(新しい芸術を発見する学びの森でいきいきとした芸術家を育て、世界へ発信することをコンセプトとしている。)

③施策の実行：ブランド計画に基づき年度計画策定、愛知芸大ブランドを確立していく

2020年度のブランディングの基礎づくりのための取組み

- ・「ブランディングのための指針」による学内周知
- ・「ブランディング年度計画」の策定
- ・「独自性のある教育事例」や「学生アンケート」等の学内調査
- ・「大学案内」の質向上
- ・「デジタル・オープンキャンパス」の制作と配信
- ・「NEW大学ホームページ」の骨子策定

(3) 大学Webサイト・SNSによる情報発信

・大学Webサイト

掲載内容：大学の概要(専攻・コース案内、教員情報など)、

大学の主要行事(入学式・卒業式など)、

在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

アクセス件数：525,741件(2019年度：458,724件)

- Facebook

掲載内容：大学の主要行事（入学式・卒業式など）、
在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

アクセス件数：476,698件（2019年度：631,218件）

- Twitter（2020年度より公式SNSとして運用開始）

掲載内容：主催イベント、在学生、卒業生活躍情報など

アクセス件数：581,082

23. トップマネジメントによる予算配分

【法人運営】

(概要)

予算配分及び予算編成にあたっては、事業計画立案の早い段階から、理事長及び両学長と財政状況等の見通しや運営上の課題を共有し、優先すべき事業等の指示を仰ぎながら実施した。

また、事業計画書の精査や関係部署・教員へのヒアリング等により事業内容の見直しを行い、捻出した財源をトップマネジメントにより主要事業へ再配分するとともに、理事長・学長の判断により執行が可能な「トップマネジメントによる事業費予算」を確保した。

[トップマネジメントによる事業費予算]

19,132 千円（業務費総額（人件費除く）1,861,215 千円の 1.03%

県大・・・12,435 千円（学長特別研究費 4,000 千円、大学裁量経費 8,435 千円）

芸大・・・4,060 千円（大学裁量経費 4,060 千円）

法人・・・2,637 千円（理事長裁量経費 2,637 千円）

2021年度

(単位:円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,861,215	19,132	1.03%	1,167,770	12,435	502,807	4,060	196,698	2,637

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2020年度

(単位:円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,866,844	16,626	0.89%	1,189,888	8,708	495,275	1,675	201,689	8,243

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2019年度

(単位:円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
2,091,087	15,774	0.75%	1,297,977	7,093	604,861	1,350	248,249	7,028

※・・・トップマネジメントによる予算枠

24. 2 大学による連携事業

【法人運営】

(連携事業の推進・検討体制)

(1) 2 大学連携推進会議

構成員 (10 名) : 理事長、事務局長、次長、経営財務部門長、学長 (2 名)、副学長 (3 名)、
大学事務部門長 (2 名)

2020 年度開催状況	議事等
第 1 回 (8 月 28 日)	現在の実施状況、2 大学連携に関するニーズ調査の実施について 等
第 2 回 (11 月 27 日)	2 大学連携に関するニーズ調査の結果について 等

(2) 2 大学連携に関するニーズ調査

【調査内容】

対象	県立大学・芸術大学の常勤教員及び事務局職員
目的	2 大学における教育研究分野における連携の実績及びニーズを明らかにするとともに、アンケート結果を学内に公表することで連携の促進を促す。
質問項目	○ 2 大学連携による教育・研究分野における実績の有無 ○ 2 大学連携により教育・研究活動を行うニーズ・可能性の有無 ○ 2 大学の連携を促進するためのアイデアや提案 (自由意見)

【結果】

回答者数 (回収率)	教員 (県大) : 62 名 / 212 名 (29%) 教員 (芸大) : 22 名 / 87 名 (25%) 事務局職員 (県大、芸大、法人事務局合計) : 52 名 / 196 名 (27%)
連携実績	「2 大学連携による教育・研究を行ったことがある」 32 名 / 136 名 (24%) 教員のみ : 25 名 / 84 名 (30%)
連携に対する ニーズ等	「連携して教育・研究活動を行う可能性がある」 96 名 / 136 名 (71%) 教員のみ : 71 名 / 84 名 (85%)

(主な連携事業)

「《災害と文化財》シリーズ 5 周年シンポジウム 地域の文化財ネットワークを考える—瀬戸・長久手・豊田エリア—」の開催 (2020 年 10 月 9 日)

【概要】

- ・両大学における地域に関わる文化財保護の事例報告
- ・瀬戸・長久手と、隣接する豊田市を中心とした地域の文化財ネットワークの推進について考える討論会

25. 事務職員の育成（海外・他機関派遣研修）

【法人運営】

（概 要）

短期海外研修は、職員に海外研修の機会を提供し、国際的な資質や見識を高め、国際交流関係業務の運営や本法人研究者の国際的教育研究活動の支援を円滑に行うことができる事務職員の育成を目的としています。

他機関派遣研修は、法人の将来を担う人材の計画的かつ効果的な育成を図るため、法人以外での実務を経験させ、外部で学ぶ刺激を得ることで当該職員の視野の拡大を図るとともに、外部職員の交流受入を行うことにより、組織の活性化を図っていきます。

（内 容）

（1）短期海外研修

① 対象

本研修に参加したことがない事務職員（プロパー職員）のうち、本研修に対する参加意欲があり、派遣することが適当であると所属する課の課長が認め推薦した者。

（ただし、研修内容によっては語学力等の要件を追加する。）

② 研修の種類

- ・名古屋大学事務職員の短期海外研修に参加し、名古屋大学の学術研究拠点及びそれに準ずる拠点、または教育研究機関を訪問する。
- ・本法人で実施する国際交流関係業務に同行し、教育、研究支援、国際交流等の推進に必要な知識を習得するために業務の補助を行う。

（2）他機関派遣

① 対象

過去に他機関へ研修生等として派遣されたことがない事務職員のうち、原則、当該年度末時点の年齢が 35 歳以下の主事・主任級職員であり、現所属における勤務年数が今年度末時点で 1 年 9 か月以上である者

② 研修の種類

- ・文部科学省実務研修
実務研修生として勤務し、配属先が作成する研修計画に基づき、業務に従事する。
- ・名古屋大学派遣研修
研修として出向し、大学運営の実務を習得させるとともに、大学間の情報交換及び人的交流を行う。
- ・愛知県派遣研修
研修生として出向し、地方行政の実務を習得させるとともに、愛知県との情報交換及び人的交流を行う。
- ・一般社団法人公立大学協会派遣研修

研修として出向し、公立大学及び国の高等教育制度を習得させるとともに、大学及び文部科学省等との人的交流を行う。

(3) 各研修の実績人数

①退職者を含む場合

	海外派遣			他機関			合計	累計	職員数※	割合
	名大	法人	計	名大	その他	計				
2015	2	2	4	0	0	0	4	4	78	5.1%
2016	2	0	2	1	0	1	3	7	78	9.0%
2017	2	1	3		1	1	4	11	78	14.1%
2018	2	1	3	1	1	2	5	16	78	20.1%
2019	2	0	2		1	1	3	19	78	24.3%
2020	0	0	0	1	0	1	1	20	78	25.6%
累計	10	4	14	3	3	6	20			

②退職者を含まない場合

研修実績 (2021年3月時点 ※)	合計	職員数 ※	割合
	16	73	21.9%

※職員数には臨時雇用職員を含まない。

【短期海外研修経験者数の詳細】

年度	名大短期研修	法人短期研修
2015	2名 (モンゴル、タイ)	2名 (中国)
2016	2名 (カンボジア、ベトナム)	0名
2017	2名 (中国、タイ)	1名 (シンガポール)
2018	2名 (中国、アメリカ) ※うち、1名は2019年度他機関派遣 (文部科学省)にも該当	1名 (スイス)
2019	2名 (アメリカ、タイ)	0名 ※ウズベキスタンに1名派遣予定だったが、 新型コロナの影響で中止
2020	0名	0名

【2021年度の予定】

- ・短期海外研修…2021年度5月現在、新型コロナウイルスの影響により派遣予定は未定。
- ・他機関派遣…東海国立大学機構(名古屋大学)へ派遣(1名、2020年8月～継続)
愛知県へ派遣(1名、4月～1年間)
一般社団法人公立大学協会へ派遣(1名、4月～2年間)

26. 学生緊急支援基金

【法人運営】

1 支援の対象者及び内容

自宅外から通学する経済的に困窮している学生に対して、寄附総額に応じた支援金の支給を行った。

2 募集期間

2020年5月29日（金）から2020年12月31日（木）まで

3 寄附金額（何口でも申し込み可）

個人 一口5,000円

法人 一口10,000円

4 支給対象者

以下（1）～（3）全てにあてはまる者

（1）自宅外から通学している学生

（2）経済的に困窮している学生

（3）「学生緊急支援金（5万円）（※）」を受けていないこと

※生活に困窮している学生や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経済的支援が必要となった学生に対する支援金

5 寄附の方法

インターネット（クレジットカード決済）又は振込

6 募集方法

愛知県公立大学法人ホームページより募集

（愛知県立大学、愛知県立芸術大学にリンク貼付）

7 寄附実績

寄付件数：269件・団体

寄付総額：24,881,000円

8 支給について

8月3日（月）以降、学生から所定の申請書等を受け付け、支援金を支給した。